

タブレットと「SkyPDF®」で、医療現場のDXを加速 「ジェイメック Digitab × Sign (デジタブサイン)」



featuring:



株式会社ジェイメック 様

美容に対する意識の高まりや、非外科的施術を中心とする施術内容の多様化などにより、市場が拡大している美容医療業界。新規開業するクリニックも増加しており、市場は活況を呈している。

その一方で、深刻化を増しているのが人材難だ。医療行為には契約書や同意書などさまざまな書類の取り扱いが不可欠だが、美容医療が身近な存在になるのに従って現場の業務負担が肥大化し、人材確保をさらに難しくしているという現実がある。

そこで「SkyPDF®」を活用した電子サインとタブレット端末を組み合わせ、これらの文書をペーパーレス化し、患者との確実なコミュニケーションと省力化を両立する院内文書管理アプリ「Digitab x Sign (デジタブサイン)」を実現したジェイメック様に、「SkyPDF®」の選定理由や同社のDXソリューションの展望について伺う。

タブレットと「SkyPDF®」で、医療現場のDXを加速 「ジェイメック Digitab × Sign (デジタブサイン)」

医療現場の切実な声に応じて挑んだ、初めてのITソリューション開発

2023年4月にリリースされた「デジタブサイン」は、医療機関と患者の間で交わされる同意書や契約書をデジタル化するクラウド型の文書管理アプリだ。

これまで紙文書で行っていた書類の作成や患者への説明、署名や保管をタブレットPC1台で行うことができ、看護師や事務スタッフの手間を大幅に削減。文書の電子化からタブレットPCの貸与まで一貫してサポートされるためスムーズに導入できることも特長で、使用を開始した医療機関からも高い評価を受けている。

このデジタブサインを開発した株式会社ジェイメックは、1995年に設立された医療分野の老舗商社で、日本の美容医療の発展を支えてきた草分け的存在だ。皮膚科や形成外科を備えた病院やクリニックに、国内外の優れた医療機器や医療機関専売の化粧品などを販売する他、レーザー機器に関しては国内に開発・製造拠点を設置するメーカーとしての側面も併せ持ち、最新技術と革新的なサービスを通じて、美容と医療の進歩に貢献してきた。

国内の美容医療の市場規模は順調に成長しており、10年前の2014年に2,800億円台だった日本の美容医療市場は、2022年には4,000億円を突破、今後もその勢いは続くと思われる。ただ、活況の一方で課題も浮上している。中でも深刻なのが人手不足とそれに伴う業務負担の

増大で、人手が足りないことにより現場の負担が増え、そのことが離職率の増加や採用難を招くという負のスパイラルに陥っている医療機関も少なくない。

この課題の解決に立ち上がったのが、同社のDXソリューション推進室室長、濱田真吾氏だ。

「現在、美容医療の世界では、いわゆる侵襲性の高いオペではなく、ホクロやシミ・あざをレーザーで除去する低侵襲な治療など、より非侵襲的な治療のニーズが高まっており治療コースも患者様の年齢層も非常に多様化しています。当社はこうした美容医療を扱っている全国約4,000の病院やクリニックとお付き合いがあるのですが、近年よく聞かれるようになったのが『事務業務にかかる時間が増えすぎて困っている』という声でした。

当社のスローガンは、“for the patients' smile”。つまり医療機関と共に患者様の笑顔を追求することが使命です。ITソリューションの提供は、当社としては初の試みでしたが、同意書・契約書にまつわる業務をDXして、本来の医療サービスに集中していただける仕組みを作りたいと考え、医療機関向けペーパーレスソリューションの開発を決意したのです」

成功の秘訣は、「限りなくシンプルで、限りなく簡単」へのこだわり



ジェイメック社初のITソリューションとしてリリースされたデジタブサイン。それでありながら、同社では約1年という短期間で開発を終え、市場での高評価に結び付けている。

その理由を濱田室長に聞くと、いくつかの成功につながるピースの存在が浮かび上がってきた。

「実はデジタブサインの開発に当たり、社内いくつかのヒントとなる実例がありました。中でも大きかったのが、社内プロジェクトとして進めてきたDX事例、そしてタブレットを使った診療サポート製品の開発経験です」

濱田室長によると、ジェイメックではコロナ禍を機に社内業務の効率化を目的とするIT部門を立ち上げた。それが今回デジタブサインを開発したDXソリューション推進室である。

「このプロジェクトでも、デジタブサイン同様にペーパーレス化を主軸とした業務効率化に取り組んだのですが、そこで学んだのが『世の中

には数多くのITソリューションがあふれているが、その選択と社内への浸透は容易ではない』ということでした。

システム担当者がどれだけ便利だと思っても、最終的にユーザーとなるスタッフに受け入れてもらえなければ、現場に根付くことはない。ましてや、デジタブサインのユーザーは、ITの専門知識を持たない医療機関のスタッフや一般の患者なのだ。

「私たちの目的は『電子化・ペーパーレス化』ではなく、あくまでも業務負担の軽減にあります。紙媒体に慣れた方に違和感なく受け入れられるほど『シンプルで簡単』であること。それをデジタブサインの開発コンセプトに据えました」

そしてもうひとつのシーズとなったのが、同社が開発したフェイシャル治療サポートシステム『re-Beau 2 (レビュー2)』である。

「レビュー2は、患者様のフェイシャル治療経過を可視化するために開発したシステムで、お顔の撮影に特化した撮影器と、撮影した画像を医師が患者様に説明するためのタブレットアプリを組み合わせています。このタブレットアプリを使ったUIが大変わかりやすいということで、医師から大変高評価をいただいたのです。

これらの成功体験が大きなヒントになり、タブレットPCで紙媒体と同様に扱え、サインもできる、限りなくシンプルで簡単なアプリという、デジタブサインの構想が固まりました」



DXソリューション推進室長
濱田 真吾様

国内向けサービスの開発パートナーには、「国産のPDFメーカー」を

目指す最終形は明確になった。続く課題は、タブレットPC上で動くアプリをどうつくっていくか、である。

「お客様へのヒアリングを通じて、開発のポイントは次の3点だということにはわかっていました。

ひとつは取り扱う書類の種類が多いこと、ふたつめは書類の準備や記入、保管など取り扱いに手間がかかること、そして医療文書の電子保存には要件があるということです。

書類の作成や取り扱いについては、PDFを使って電子化することで直感的でわかりやすいシステムを構築できるという確信がありました。しかし、3点目の「医療文書の電子保存」に関しては、単に電子サインや印鑑を画像として保存するだけでは要件を満たせません。

そこで、“PDF、電子契約”といったキーワードで活用できそうなPDFソフトの調査を進めたところ、電子サインやPDF印鑑とタイムスタンプを組み合わせることで、厚生労働省のガイドラインに適合できそうなことがわかりました。

またデジタブサインはシンプル・簡単というコンセプトを実現するために医療機関側でサーバを用意しなくてもいいクラウド型のサービスにしたいと考えていたので、API連携で必要な機能を使えることも必要条件でした。そうして出会ったのが、スカイコムの『SkyPDF®WebAPI』だったのです」

実はその時、スカイコムの他にもう一社、海外の大手PDFメーカーも

検討していたという濱田室長は、スカイコムを選んだ決め手を次のように語る。

「営業の方に来ていただいて会話する中で、こちらが不安に感じていることに的確かつ実績を伴う回答を挙げていただいたことが大きかったですね。

デジタブサインは国内のクリニックに向けた商品ですので、日本の商習慣をよく理解している国内企業の方が話が早く、こちらが気づいていない部分についても指摘いただけるなど、頼もしさと安心感がありました。またアプリ開発には、必ず多かれ少なかれすり合わせの必要が生じますが、その場合も国内に開発拠点があり、日本語で会話できるエンジニアがいる強みは代え難いと考えたのです」

『SkyPDF®WebAPI』の機能の豊富さについては、デジタブサインリリース後にも、ますます評価が高まっているという濱田室長。

「病院やクリニックで使われている文書は公的なひな形があるわけではなく、それぞれが独自に用意したものが使われています。それらの文書を整えながらPDFフォーム化することも『デジタブサイン』のサービスの一環になりますので、かゆいところに手が届くような機能がふんだんに用意されている『SkyPDF®WebAPI』には、現在進行形で助けられています。これも、国産PDFソフトの面目躍如と感じています」

医療機関にとってもジェイメックにとっても、新たな戦略的サービスに

インタビュー時点では、まだリリースされて半年強の『デジタブサイン』。導入した医療機関での定量的な評価はこれからというが、平均的なクリニックにおける試算では、年間約25kgに相当する紙資源が節約できると濱田室長は胸を張る。

「当然、保管庫の存在や紙文書を運ぶ手間、またリピートの患者様の場合は従来の書類を検索する手間などもありますので、これらが全てタブレットPCに集約された効果は数値以上に感じていただけるはず。患者様にもQRコードを使って控えをお渡しするのですが、紛失のリスクが非常に少なくなり、大変好評だと聞いています。何よりこうした手間を省くことで患者様とのコミュニケーションに多くの時間を割けるようになったという声が一番嬉しいですね」

さらに、『デジタブサイン』はジェイメックの営業戦略にも大きな変化をもたらしている。

「『デジタブサイン』は、患者様サービスの質を高めると同時に、従業員

満足度(ES)の向上にも効果的なサービスです。そのためマネジメント層からの注目度も高く、当社としても、より経営の上流から医療機関の支援ができる機会が増えるのではないかと期待があります」

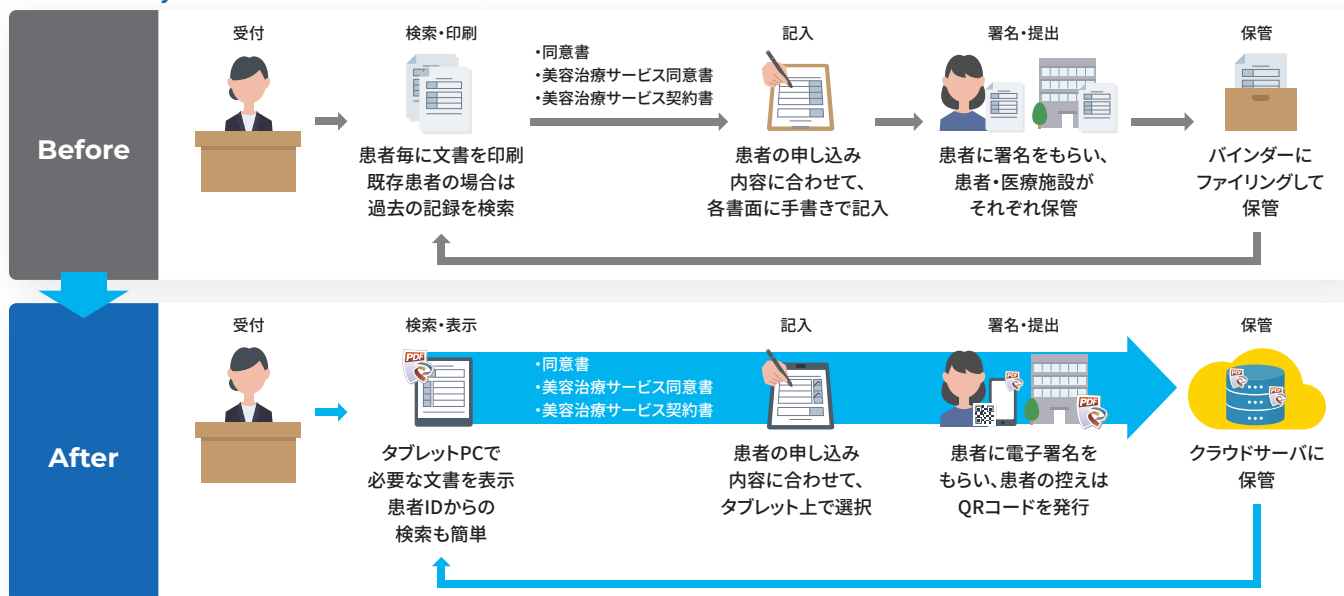
自社開発の強みを生かし、次は既存の電子カルテとの連携に取り組みたいという濱田室長。最後に、同社のDXソリューションにおける今後の展望を伺った。

「『デジタブサイン』は、当社と関係の深い美容医療系の病院やクリニックに向けて開発したサービスでしたが、どんな医療機関でも使っていただける汎用性があります。また同意書・契約書以外の院内業務のDXにも弊社の経験は生かせると考えていますので、その時はぜひまたスカイコムにも力を貸してもらいたいですね」

“for the patients’ smile”

DXソリューションという新たな強みを手にした同社の挑戦は、まだ始まったばかりだ。

タブレット+SkyPDF®の『デジタブサイン』で、文書管理のDXを実現！



導入製品

SkyPDF® WebAPI

(Windows用)WebAPIを使ったシームレスなPDF編集

スカイコムが長年にわたって開発提供してきたPDF技術を利用できるWindows環境用のWebAPIです。本製品を導入することで、外部のWebシステムやWebアプリケーションからREST /Fを使用したPDFドキュメントコントロールが容易に実現でき、短期間・低コストでのシステム構築、アプリケーション開発を可能とします。



※記載された商品名・各製品名は、各社の登録商標または商標です。

株式会社 **スカイコム**

<https://www.skycom.jp/>

本社：〒101-0023 東京都千代田区神田松永町19 秋葉原ビルディング10階 TEL: 03-5289-0788 FAX: 03-5289-0783
R&Dセンター宮崎：〒880-0801 宮崎県宮崎市老松2-2-22 JR宮交ツインビルオフィス901

AW-2408-001500